

オピニオン opinion

滝野隆浩の
掃苔記

鶴瑛さんの介護戦記

さらさらと結婚までの日々を語ったあと、「パン」とひとつ強弱が打たれ、あいさつ代わりに「三方ヶ原車記」のさわりを少々。パンパン、バパン。声を振り上げ、金色に染めた髪が揺れ、手は左に右に。そして再び、静かな介護の日々を。女性講師、田辺鶴瑛さん(88)の公演は夢幻自在だ。

8月上旬、河北家庭医療学センター(東京都杉並区)主催の「看取り経験者語る会」での一瞬。鶴瑛さんは約40人の参加者をくぐり、「介護地獄」の現場に引き入れていく。介護は3度、経験した。最初は大学受験に失敗した18歳のころ。寝たきりの母に、若さゆえの興奮。パン。3年間、病院に通い詰めた。

2度目は養母。嫁として頑張ったつもり。空回りしていた。なんで私ばかり！ 朝毛した夫の頭にソースをぶちまけて、パンパン。夫は言った。「じゃせん、他人たもんな。そうか、他人なりの介護でいいのよ。やらせてみたら、養父は3年間、毎日背中をさすり続けた。口もきかない夫婦だったのが、バパン、最後に養母は養父の手を取って「過去は水に流す」って。夫婦のことは他人にはわからない！

子育てもあってほろぼろだった。35歳、田辺一鶴に入門した。大田を出すのはいい！ 修業の合間に、介護講座を考えてみた。そして師匠は「面白い」って。でも、ウケた。戦記物はオトコの世界。オンナには生活のリアルがある。そのあと施設でヘルパーとして働いてみて、「トドみたいになつたババア」を、パンパン、介助した。食えないのに食わせようと。施設じゃ死なせてもらえない。それってシアワセ？

3番目の養父の介護は年が本場の地獄。寝たきりで認知症でひと晩中「助けて——」と大音で叫び続けた。悲惨な風景なのに笑って泣ける。この親子バトルの様子をせび、公演で聴いていただきたい。介護の12年を振り返り、鶴瑛さんはこう話す。「介護って、先に感謝したモン勝ち」なんです。どんなに怒鳴り合っても殺したいと思っても、必ずいつか感謝する時がある。だから、どっちが先に感謝するか。養父には先に感謝されて……」

(社会部編集委員)

MAINICHI

新毎日新聞

8月30日(金)
2019年(令和元年)

〒東京都千代田区一ツ橋1-1-1
100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社

毎日新聞 ライフコンシェルジュ 生活の窓口

生活の窓

100名様 無料ご招待

これからの不安解消セミナー

令和元年 9月25日(水) 毎日ホール 毎日新聞東京本社 地下1階
14:00~15:15 (受付開始13:15) 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 東京メトロ東西線竹橋駅1b出口



養父を看取った経験を基にした介護講座で知られる講師、田辺鶴瑛さん

老後レッスン始めませんか
「これだけは知っておきたい終活のこと」

エンディングノートを買ってはみたものの、ほとんど書いていない…何から始めてよいか分からない終活…そんなあなたに最適なセミナーが開催されます。大丈夫、と思っていた終活対策は十分なのか。誰に相談してよいか分からず解決すべき気がかりなことがそのままになっていないか。相談から、お墓、そして老後資金の運用のこと…こんな不安を解消するため、各分野の専門家が具体的な相談事例とその解決方法を分かりやすくお伝えいたします。

話を聞くだけでなく、セミナー前後は、個別相談もできます。この機会をお見逃しなく、ぜひ、ご参加ください。

応募締切 **9月18日(水) 必着** 定員 **100人** 応募者多数の場合、抽選

応募方法 代表者のお名前、ご住所、電話番号、参加人数、相談、お墓、老後資金運用で不安になっていること質問したいことを明記の上、下記①~④のいずれかでご応募ください。

9月18日以降、当選者のみ参加証を発送します。

①電話 03-3212-0861 (平日10時~17時) ②メール seminar@mainichi.co.jp (24時間受付)
③FAX 03-3212-0868 (24時間受付) ④ハガキ 〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1 毎日新聞社「老後レッスン」セミナー係

主催：毎日新聞社

プログラム

1	13:15~14:00 個別相談会(前半)
2	14:00~15:00 セミナー 老後レッスン始めませんか 「これだけは知っておきたい終活のこと」 講師 田辺鶴瑛さん(講師) 久野豊美さん(管理士法人Drew24(株)代表) 嶋津和寿子さん(公益社団法人シニアグループ代表) 本田崇さん(元代官兼基金員)
3	15:00~15:15 生活の窓口とは 講師 山本 健(毎日新聞社・生活の窓口で)
4	15:15~16:00 個別相談会(後半)